



平成29年度 学校だより

緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

No. 153 平成30年 2月1日発行

発行責任者 松井 裕次

校長室の窓から

帰り道は、速かぬ

校長 松井 裕次

楽しい時間は速い

待ちに待った修学旅行は、出発すると瞬く間に時間が過ぎてしまい、中日を過ぎたあたりから「帰りとうなか〜」と多くの生徒が口に始めていた。名残は尽きないが、続きは自分たちの足で訪問してほしい。

そう言えば、子どもの頃、土曜は半ドン（午前中授業）だったが、金曜の夜をワクワクして迎えていた。我が家ではプロレスが定番で、心臓をバクバクさせながら見ていたのを思い出す。放送時間が残り少なくなると、それまで劣勢だったジャイアント馬場の空手チョップが炸裂し、アントニオ猪木のゴブラツイストが決まるところで最高潮になる。土曜の朝、教室で昨夜のプロレスを語り合い、新しい技は直ぐに実演で確かめ合った。楽しい時間は速く過ぎてしまう。日曜の夕方、サザエさんが始まる頃には、何かしら寂しさが漂ってくるのを感じていた。そして、兎にも角にも、月曜の朝が始まっていった。

充実した時間も速い？

子どもの頃はあれほど1週間を長く感じていたのに、成長するに従って、体内時計が速く回っているような気がしていた。高校生の成長にはめざましいものがある。学生時代に体験する感動、そして充実感・達成感は、一生懸命取り組んだからこそ得られるものだ。大人になってからも、「充実した時間は速く感じる」ものだとそう信じてきた。

ところが、引き際になって思うことがある。自分にとって「今が充実した時間なのか」を振り返ることも必要だ。スケジュールには、毎日何かしら入り込んでくる。時間が足りずに、速く感じているだけなのかもしれない。ややもすれば物事を切り回すことが優先されて、本質を見失ってはいないだろうか。

脳科学者の茂木健一郎氏が、「発見が多いと時間が経つのを遅く感じる」と言っている。本当に毎日が新しい発見に充ちているのだろうか。茂木氏によれば、時間の流れが速いと感じることは、「最近、新しいことに挑戦していない」というサインだそうだ。この頃、特に速く感じていたのは、そういうことかと納得がいく。これからも新鮮な気持ちを保ちながら、挑戦を続けたい。

未知の時間は長い

学習合宿も部活動の強化合宿も、中日までが長い。先が見えないからだろう。いわゆる本人にとっては、未知の領域とも呼べるものだ。1週間の合宿を考えたとき、誰しもが経験することだが、2日目、3日目辺りで、「このまま最後まで頑張れるだろうか」と不安な気持ちになってくる。ところが中日を過ぎると、4日頑張れたのだから残り3日は頑張れるだろうと、経験から力を導き出し、発想が前向きになってくる。決して、後半のメニューも楽ではないはずだ。それなのに、前向きにピークパフォーマンスを目指し、スパートをかけるようになってくる。何事も折り返しを過ぎると少しだけ気持ちが楽になる。「高校生活も半ばを過ぎると速い」と多くの卒業生が言っている。

帰り道は速かぬ

92歳の母を近所に独り暮らしさせている。いつの間にか片方の視力を失っていることを本当に申し訳なく思っている。毎週、その母の買い物に付き添っている。母が心配するのは、自分のことよりも家族のことだ。耳も遠いので、会話が難しくなってきたが、今でも私に色んな事を教えてくれる。新聞記事やテレビのニュースなど、本当によく知っている。買い物の足で、近場の温泉や食事に連れ出すことがある。自分からは決して言い出さないが、楽しみにしているのがよく分かる。半日を過ごした帰り道、決まって言うのが、「帰り道は、速かぬ」である。一緒にいられる時間を惜しむように聞こえてならない。

～創立記念日に寄せて～

「未来につなげ僕らの南高魂」

長崎県立佐世保南高等学校

櫻花の情熱的なる、桃花の艶情的なるに比すれば梅花は理知的である。

身世匆忙として変転極まりない時代に處するは容易なことではない。人はその時代的特性に眼鏡の度を合わせることが必要であるが、その目は飽くまで高きを望む客観的鮮明さを持たねばならぬ。足下の混乱に意志の自由を失い、複雑なる事態に批判力の不健康に陥ることは創造的生活と縁を絶つことに他ならぬ。常に省みてその放心を求め、思うて無限の真実に迫らなければならぬ。

梅は愛を内容とする知性に輝く花である。

(初代校長 照屋亀三先生 『青雲』 創刊号寄稿の抜粋)

“理想は高し南高” 校歌の歌詞の意味を求めて

校歌は在校生及び卒業生にとって学校そのものであり、シンボルでもある。歌詞の真意を理解し、この素晴らしい校歌を誇り高く歌いたい。

1 番は、人生や学業の出発に当たって、どこまでも気宇を大きく、理想を天高く掲げている。

2 番は、現実を見つめ、足を大地につけて、真面目に着実に真理の探求と人間性の修練、人間愛の真実を会得することを述べている。

3 番は、三か年に磨かれたすべての力がここに結集される。卒業はまた出発である。社会の波は荒い、人生の未知は遠い。しかし自由への不屈の翼で羽ばたくとき、南高の校風はいよいよ振起される。

在校生は絶えず努力し、卒業生は母校を忘れず向上する。「校風ここにいや増さん」である。

昭和23年12月24日、旧制佐世保中学（本校が跡地）など5校が統合し、南北2校が設置され、昭和24年2月1日に正式に開校。同年3月に1回生が卒業している。昭和23年を0歳、昭和24年を1歳と数えることにすると、今日は70歳の誕生日である。歌詞にあるような三年間を本校で過ごし、胸を張って社会のあらゆる分野で活躍している幾万の卒業生と共に創立70周年を祝いたい。

(五十周年記念誌より抜粋し編集、文責 校長)

佐世保南高等学校 校歌

作詞：校歌制定委員会

作曲：下總皖一

- 1 烏帽子が岳の 峰遠く
湧きて流るる 青雲に
光を慕ふ 若人の
理想は高し 南高
- 2 柏の緑 風かをり
萌ゆる丘辺の 若草や
春秋ここに 三星霜
真と愛とを 織りなさん
- 3 希望の港 空蒼く
天路はるかに 大鳳の
自由の翼 翔くるとき
校風ここに いや増さん

3 学年 『想い続ける者が勝つ！ 70 回生の限界突破』

センター試験を終え、いよいよ二次試験に向けての特別編成授業が始まりました。今年は、国公立大学前期試験までの準備期間が6週間と長く、この期間の勉強が勝負の分かれ目となります。

二次試験の受験科目は専門的に出題されますから、難しいと感じると同時に、知的好奇心が高まる内容でもあります。この問題を「解けるようになりたい！理解したい！」という想いが強くなるほど勉強しないと解けないのだ、と実感するでしょう。解けるようになるたびに合格に一歩ずつ近づくでしょう。乗り越えないといけない試練の時期です。

春に自分の花を咲かせるには、寒いこの冬にコツコツと力を蓄えるしかありません。自分の限界を突破しよう。70回生の仲間とならできる！毎朝お弁当を作るときに、合格しますようにと念じながら作っているんですよ。」「最後ですから、できるだけのことをしていきたいと思います。」これは、3年生のある保護者の方の言葉です。いろいろな人の“思い”に支えられた、高校生活の3年間が終わろうとしています。最後の約1か月に全力を注ぎ、こうした“思い”に応じて、有終の美を飾ってほしいと願っています。

2 学年 『来年度に向けて』

平成29年度も終盤を迎えましたが、この1年間に71回生が成長した姿を実感することができたでしょうか？

新たな生徒会執行部として活動を始めた4月の歓迎遠足。高総体後最高学年として活動を始めた運動部。来年度の進学目標を目にすることができたオープンキャンパス。クラスでの団結と学校全体を盛り上げることができた文化祭。想いやりの大切さと集団行動の意義を学んだ修学旅行。様々な場面で生徒の個性や特技を活かしながら、少年少女から青年へと階段を上がってくれたと思います。しかし、一定の成果を上げることができた事もあれば、まだ満足できない事があることも事実です。

さて、いよいよ高校生活最後の1年がスタートします。何事においても全力を尽くし、最後まで諦めない生徒が望むべき結果を手にしていくと信じています。互いに切磋琢磨し、高め合う集団に進化していくために今後も71回生の活動にご協力いただきますよう宜しくお願いします。

1 学年 『「あっという間」という感覚』

「先生方は、何かにつけ「あっという間」とおっしゃりますが、学校で何か問題を起こしていないか、ちゃんと授業を受けているだろうか、人様に迷惑をかけてはしないか、電話が鳴るたびにドキッとす。そんな毎日毎日はとても長いんです」。

もう20年以上前のことです。面談の中でH君のお母さんはこのように言われました。H君はやんちゃな面のあるお子さんで、学校に呼ばれるたびにお母さんは、時に涙ぐんで申し訳ないと頭を深く垂れるのでした。物腰の柔らかな、丁寧なお母さんでした。

何事かを念じ続ける時間はじれったいほど長い。例えば合格発表を待つ時間は10分でも20分でもじりじりと長い。H君のお母さんの言葉に多くのことを教わりました。以来、「あっという間」という言葉を軽々に使えません。実際、そう感じることも多いのですが、自分がそう感じる時間の中にも、さまざまな人の想いや何事かを一途に念じる気持ちがあるのだということに、考えが巡るようになったのです。

1学年で過ごす時間も最終盤となりました。君たちには「あっという間」の時間だったでしょうか？

～大学入試センター試験を終えて～

平成30年度大学入試センター試験は1月13日(土)、14日(日)に実施されました。本校生徒は、長崎国際大会会場において受験しました。当日は天気にも恵まれ、体調不良を訴える生徒もなく無事に受験を終えることができました。今年度も、ほぼ昨年どおりの受験形態であり、生徒たちは模試などでの練習どおり落ち着いて受験ができたようです。各休み時間ごとに控え室では先生たちが生徒をねぎらったり、生徒たちがお互い励ましあったりする姿が見られ、良い雰囲気の中で2日間の日程を終えました。

これから生徒たちは自己採点結果をもとに1月31日までに国公立大学への出願を済ませることになります。同時に2月25日から行われる個別学力試験～2次試験～や私大入試に向けての対策講座が始まります。センター試験終了は国公立大学及び私立大学の受験者にとって前半戦が終わったに過ぎません。「現役生は最後まで伸びる」を合言葉に、最後まで子供たち自身の進路実現に向け、諦めず学力アップに励んでくれるよう応援したいと思います。



女子バスケット部&男子バレー部



九州大会出場決定！！

1月27日(土)～1月29日(月)に行われました長崎県高等学校新人体育大会で、本校女子バスケットボール部が「4位」、男子バレーボール部が「3位」という、素晴らしい結果を出してくれました。この結果により両部とも、以下の日程で九州大会に出場します。九州大会での活躍を期待して、南高全員で応援しましょう！

【男子バレーボール部】

第28回全九州選抜高校バレーボール大会 2/9(金)～2/11(日) 沖縄県名護市

【女子バスケットボール部】

第48回全九州選抜高校バスケットボール大会 3/16(金)～3/18(日) 沖縄県西原市

《 2 月 行 事 予 定 》

1日(水)	開校記念日(平常授業)	17日(土)	Sプロ(3年)
3日(土)	進研M(2年)、Sプロ(1・3年)	22日(木)～27日(火)	学年末考査(1・2年)
4日(日)	進研M(2年)、ハイレベル模試(1年)	23日(金)	前期受験者集会
6日(火)	推薦入学者選抜(午後)	25日(日)	国公立大学前期日程試験
7日(水)	常任委員長改選	28日(火)	卒業式予行
10日(土)	個別学力試験対策模試(3年) Sプロ(1・2年)		同窓会入会式

《 3 月 行 事 予 定 》

1日(木)	卒業式	12日(月)	教室移動(2年)
3日(土)	Sプロ(2・3年) スタディーサポート(1年)	13日(火)	教室移動(1年)
6日(火)	検査会場設営	19日(月)	校内大会
7日(水)、8日(木)	一般入学者選抜	20日(火)	教科書販売
10日(土)	Sプロ(1・2年)	22日(木)	海外研修結団式(1年)
		23日(金)	後期終業式 離退任
		24日(土)	海外研修(～3/31)